

二〇一九年度・学力考查問題【国語】

(中学第一回)

注 意

- 一、試験時間は50分です。
- 二、答えはすべて解答用紙にはつきりと記入しなさい。
- 三、解答用紙のみ試験終了後集めます。
- 四、問題は12ページで□・□・□の三題あります。開始の合図で必ず確認し、そろつていないう場合にはすぐに手をあげなさい。
- 五、本文の表現については、作品を尊重し、そのままにしてありますが、設問の都合上、省略した部分、表記を改めた部分があります。
また、特に指示のないかぎり、句読点等も一字に數えます。

— 線の漢字と同じ漢字を含むものを次の 中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

— 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

- 1 キ重品を管理する。
ア 今世キ最大の発明。
イ フランスのキ族。
ウ キ険な行動に走る。
エ 変わりゆくキ節。
- 2 写真を現ゾウする。
ア 動物園のゾウが逃げた。
イ 立派なつくりの土ゾウ。
ウ 金色の仏ゾウ。
エ ゾウ器を提供する。
- 3 二人の地位は同カク。
ア 技術のカク新。
イ 内カク総理大臣。
ウ 勢力のカク大。
エ カク差が広がる。
エイ遠の愛をちかう。
エイ光のかけ橋。
- 4 王座を防エイする。
ア 人工エイ星を打ち上げる。
イ 苦手なエイ語を勉強する。
ウ 草津温ゼンに行く。
エ 料理のゼン門家。
エ 商品のゼン伝。
エ 感ゼンをふせぐ。
- 5 深刻な大氣汚セン。
ア 感ゼンをふせぐ。

六年生の「僕（ぼく）（＝信也）」は、社長の父と教育熱心な母、名門校に学ぶ兄と姉（＝美冬）に囲まれて育ちましたが、成績は全く振るわず、私立中学入試に全て落ちました。これに激怒した母は、地元・東京の公立中学ではなく、山梨県にあるという聞いたことのない男子校（試験は面接のみで、入学後は寮で生活する）への入学を一方的に決めてしまいました。数日後、思い悩んだ「僕」が、自宅近くの川に飛びこもうと橋の欄干に手をかけたその時、密かに思いを寄せているクラスメートの「田中さん（＝花ちゃん）」に呼び止められ、夕食に招かれます。彼女の家は母子家庭で、母親は「僕」の父が営む会社の工事現場で働いています。

「うまいかい？」
お母さんが聞く。

「あ、はい。美味しいです」

「そうか、よかつた」

田中さんのお母さんが、じつと僕を見つめた。

「あの橋の上で何してたんだい？」

ドキッとする。

「いや、ちょっと、川を見てて」

「あんな暗くなつてから？ あんな川、なんもないだろ？ 魚もいなし。ただの汚い川だよ」

「いや、まあ」

視線をそらす。

「腹、減つてたろ？」

「え」

「橋の上にいた時」

「あ、はい」

「悲しい時、腹が減っていると、余計に悲しくなる。辛くなる。そんな時はメシを食え。もし死にたいくらい悲しいことがあつたら、とりあえずメシを食え。そして一食食つたら、その一食分だけ生きてみる。それでまた腹が減つたら、一食食べて、その一食分生きるんだ。そうやってなんとかでもしのいで命をつないでいくんだよ」

田中さんのお母さんが、静かな暗い色の目でこっちを見ている。

「その食べ物をくれる人には感謝しなくちゃいけない。それは命をつないで、生かしてくれる人だ。食事を作ってくれる人とか、食材を買うお金稼いでくれる人とか、な」

お父さんとお母さんの顔が浮かんだ。お母さんの作るクリームシチューは僕の大好物だ。塾のお弁当も毎日作ってくれた。お父さんも夜遅くまで働いてくれている。

「じゃあ、今日はとりあえず、激安堂のお惣菜担当の人には感謝しなくちゃ」

田中さんが言い、

「あと半額シールを貼つてくれた人にもな」

田中さんのお母さんが応じ、三人で笑つた。

家に帰ると、お母さんが出迎えてくれた。何も聞かれなかつた。ただ「田中さんには何かしら後でお札をしておくわね」とだけ言つた。

次の日の夜、お兄ちゃんの部屋に呼ばれた。お姉ちゃんもいた。

「これ、僕と美冬から。入学祝い」

綺麗にラッピングされた箱だつた。

「なあに？ 開けてみていい？」

お兄ちゃんが「もちろん」と言うので、包みを開けてみると中学生

用の電子辞書だつた。

「使うようになると思うから。向こうに持つていって」

お兄ちゃんが言うと、お姉ちゃんもうなずいていた。

「まさか、こんなことになるなんて思いもしなかつたけど。信也、本当に大丈夫か？ 本当にこれでいいのか？」

「うん、僕、²大丈夫だよ」

「まあ、お母さんは言い出したら聞かない人だからな」

「お父さんだつて何も言えないものね。ああなつちやうと、もう誰の話にも耳を傾けないから。お母さんはうちの絶対君主だもん」

お姉ちゃんが、お母さんのことを批判するのは珍しかつた。

「今からだつて遅くないぞ。信也がどうしても嫌なら、お兄ちゃんがお母さんに言つてやるよ。たとえ喧嘩するこになつたつて」

「私も力になるわ。やっぱりまだこんな小さい信也を寮に入れんてかわいそうよ」

お姉ちゃんが涙ぐんだ。それを見て僕も、胸のあたりにあつた悲し

みの玉みたいなものが一気にせり上がりつてきて、のどを通つて口からあふれ出し、声を上げて泣いてしまつた。見るとお兄ちゃんも泣いていた。僕はお兄ちゃんが泣くところを初めて見た。

「お、おにいちゃんも、泣く、こと、あるんだね」

しゃくり上げながら言うと、

「そりやあるよ。僕だつて、結構泣いてるんだ。見えないところで
だけど。誰だつて悲しい時、辛い時は泣く。泣かない人なんかいない
よ。泣きたい時は、泣けばいい。ボーアズ・ドント・クライじやない、
少年よ、大いに泣け、だ。ノーボーイ、ノークライ、泣かない少年は
少年よ、大いに泣け、だ。ノーボーイ、ノークライ、泣かない少年は
少年よ、大いに泣け、だ。ノーボーイ、ノークライ、泣かない少年は
少年よ、大いに泣け、だ。ノーボーイ、ノークライ、泣かない少年は
少年よ、大いに泣け、だ。」

お兄ちゃんが僕より大きな声で泣いた。もうこれだけで十分だった。

「大丈夫だよ。僕、もう、覺悟を決めたから」

ようやく三人の泣き声が落ち着いたところで言うと、
「それでも嫌だつたらいつでも帰つてきていいんだぞ。ここが信也の
家なんだから。その時こそ、お兄ちゃんが守るよ。たとえお母さんが
なんと言つたって。絶対に」

お兄ちゃんのその言葉を聞いてまた涙が出た。お姉ちゃんがハンカ
チで拭いてくれた。^ふうちの柔軟剤の香りがした。

卒業式は気持ちよく晴れた日だつた。この日までにずいぶんと予行
演習をさせられたので、本番を迎える頃には飽きてしまうんじやない
かと思つたら、当日はやはり違つていた。身が引き締まるつて、こう
いうことなんだと思つた。

お母さんは最初出席することを渋つていたが、「行かなきや行かな
いで、陰^{かげ}で何か言われるのも嫌だし」と行くことを決めた。同じ塾だつ
た子の保護者に会うのが嫌だつたらしい。案の定、会場に入ると、水
谷さんや栗山さんをはじめとする同じ塾だつた子の母親が寄つてきて、
あれこれ聞かれたが、お母さんは、

「ええ、もう、子供がどうしてもその学校がいいって言うもんだから。

ああ見えて独立心が強いらしくて、本人の強い希望で。親としても、
本人が行きたいと言つているところが一番だと思つて。もともと自然
が大好きな子で。ええ、小さい時からね。そういう環境に憧れてたん
ですよ。そりやあ心配したらキリがないし、淋^{さび}しくなりますけど、男
の子ですね、たくましくなつてくれるんじやないかと主人とも話して

笑顔を張りつかせ、普段より高いトーンの声で饒舌だつたが、なん
だか痛々しかつた。周りの母親たちも、僕のお母さんの話に神妙な顔
でうなずいている風だつたが、口の端に小馬鹿^{はなこばか}にしたような笑みが浮
かんでいた。

みんな僕のせいだ、と思うとまた胸が苦しくなつて、その場をそつ
と離れると、田中さん親子が入つてきた。

「あれ、どこ行くの？ もう始まるよ」

田中さんは、白いブラウスに黒いカーディガン、シンプルな黒のス
カートだつた。アイドルの衣装風の、フリルのついた派手なチエック
のスカートや、飾りのついたジャケットの子が多い中で、それは逆に
目立つた。田中さんがひどく大人びて見えた。

田中さんのお母さんは黒のワンピースを着ていて、胸に水色のコ^{※1}
サージュをつけていた。

「見て見て、これ、お母さんが新聞紙で作つたんだよ」

田中さんが、水色のコサージュを指差した。

「ええつ、新聞紙？」

「うん、カラー印刷の面ね。のりを使つて、シワみたいに加工して。

すぐくない？」

「うん、すごい」

それは新聞紙と言われても全くそろは見えなかつた。ひなげしみた
いな薄い花びらを何枚も重ねていてとてもよくできていた。⁶やつぱり
田中さんのお母さんはすごい人だ。

「ま、よく見ると、ところどころ漢字らしきものが見えるんだけど、
それはそれで和テイストというか、^{※2 やまととかんさい}山本寛斎みたいでしょ？」⁷

僕は山本寛斎という人を知らなかつたけど、田中さんがそう言うの
ならきっとそうなのだろう。

「これがないと、真っ黒親子で葬式みたいになっちゃうからなー」

田中さんのお母さんが縁起でもないことを言つて笑つた。
田中さんたちのお母さんが立て直せた僕は、落ち着いて式に
臨めた。木戸先生は式が始まる前から泣いて、卒業証書授与でク
ラスの子の名前を読むのもやつとだつた。泣き濡れるその姿は、まる
で何かその種の妖怪みたいで、気持ち悪さが倍増し、泣く用意をして
いた女子たちの涙を引つ込ませた。最後まで木戸先生は木戸先生だつ
た。

式が終わると、僕のお母さんが、田中さんのお母さんに何か封筒の
ようなものを渡していた。この前言つてたお礼だろ。多分商品券。
田中さんのお母さんは恐縮したように、何度も細い体を折り曲げてい
た。僕のお母さんが、あのコサージュは新聞紙で作つたものだと知つ
たら驚くだろ。^{※3 わう}

その後、みんなは校庭で写真を撮つたりした。ほかのクラスの子は、
先生を囲んで写真に収まつたりしていたが、僕のクラスは誰も木戸先

生に声をかける人がいなかつた。と思つたら、田中さんが近寄つていつ
て、一緒に写真を撮つていた。ほかの女子は「げつ、マジか。ありえ
ない」などと口々に言つていたが、田中さんと並んだ木戸先生はまた
泣いてしまい、田中さんのお母さんに支えてもらつていた。

田中さんが僕にも一緒に写真を撮ろうと言つてくれた。「花ちゃん、
木戸っちの次は工口神と？ 何？ 妖怪コレクション？」などと、水
谷さんが憎まれ口をたたいたが、気にならなかつた。二人並ぶと、僕
は田中さんの肩ぐらいしか背がないので、少しかかとを浮かせた。蕾^{ほほ}
の膨らんだ桜の木の前で、田中さんのお母さんが撮つてくれた。

「写真、できたら渡すね」

田中さんが言うので、「あ、でも僕、二十七日にはこつちを出ちゃ
うんだ。入学式の前に、入寮式つていうのがあるから」慌てて答える。
「二十七日か。うん、わかつたよ。それまでにはできるよ。二階に住
んでいる大家さんの息子、賢人つてのにデジカメ借りたんだけど、プ
リンターも持つてるから、やつてもらうよ。いつも暇な人だから、す
ぐにやつてくれると思うよ」

山梨に行く日が来た。荷物は既に車に運び込まれていた。平日だつ
たが、お父さんが仕事を休んで、運転していってくれる。お兄ちゃん
とお姉ちゃんも行きたがつたが、それぞれ春期講習会とイングリッ
シュキャンプが重なつてしまい、残念がつていた。

「もう忘れ物はないかな」

お父さんが、トランクを閉めながら聞く。
「うん、大丈夫だと思う」

車に乗り込もうとした時、

「あーっ、よかつた。間に合つた」

後ろで声がした。自転車に乗った田中さんとお母さんだった。僕の

お父さんを見て二人がペコりと頭を下げる。自転車を止め、

「写真がようやくできたから。もーっ、賢人のプリンター、長いこと

使つてなかつたから、調子悪くてさ。修理に出していたから、遅くなつ

ちゃつたよ」

薄緑色の封筒を差し出す。

「あ、それからこれも」

紙袋を渡された。

「バレンタインの日、休みだつたでしょ。だからチョコ」

バレンタイン？　ああ、先月の十四日は確か面接を受けに行つてい

たんだ。

「いいの？」

「うん、昨日お母さんと作つたの」

「ちゃんと半額じゃないチョコで作つたからな。うまさ倍増だぞ」

田中さんのお母さんらしい理屈だ。

僕のお母さんが出てきて、田中さんのお母さんと、「ありがとうございます」という会話を交わす。僕

も何か田中さんに伝えたいことがあるのに、言葉が出てこなかつた。

「天気でよかつたね」と言う田中さんに、「うん」と返事をするのがやつとだつた。

「そろそろ時間なのでこれで失礼します。本当にありがとうございま

した」

僕のお母さんが会釈し、僕に、車に乗るように促す。

「じゃあ、行くね」

「うん、元氣で。がんばつてね」

車が走り出す。後ろを見ると、田中さん親子が大きく手を振つていた。見えるかどうかわからないけど、僕も手を振り返す。角を曲がつて、二人の姿が見えなくなるまで。

さよなら、田中さん。

車内で封筒を開けてみると、写真が二枚出ってきた。卒業式の後、校庭で並んで撮つた写真だ。陽に向かって撮つたので一人ともなんとなくまぶしそうな顔をしている。僕は泣く直前のようにも見えた。ちょつとかかとを浮かせた努力も虚しく、やっぱり身長差が歴然としていた。次に会う時は少しでもこの差が縮んでいるといいなと思つた。

(鈴木るりか『さよなら、田中さん』小学館より)

※1 コサージュ：婦人服の胸や肩などにつける小さな花飾り。

※2 山本寛斎：世界的に有名な日本人デザイナー。

※3 エロ神：ある誤解をきつかけに、「僕」は女子たちからこのように呼ばれて嫌われている。だが田中さんだけはごく普通に接してくれている。

問一 線a「絶対君主」・b「案の定」とあります、本文に

おける意味として最も適当なものを次のAからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- a 絶対君主
- ├
- ├
- └ イ 比べようもないほど権力の強い者
- └ ウ 隠からあやつる実力を持つ者
- └ エ 一番知恵があつて尊敬される者

b 案の定

ア 思いも寄らずに
イ 当然のこととして
ウ 今までと同じで
エ 予想した通りに

問二 線1 「田中さんの（）こっちを見ている」とあります。

「」のときの「田中さんのお母さん」の説明として最も適当なもの

を次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア 将来を思い悩む「僕」に、まずは食事で元気を取り戻させ、
前向きに考えれば明るい未来が待っているということを教え

イ 思いつめていた様子の「僕」に、そうしたことの愚かさを
厳しくしかつてから、生きることの尊さについて優しく諭そ
うとしている。

ウ 「僕」が死のうとしたことを見抜いた上で、食事という生きるために不可欠な営みに向きあわせ、気力を取り戻させようとしている。

エ 人の話を聞こうとしない「僕」に、自分のことばかり考

えず、ここまで育ててくれた両親への感謝を思い出させようとしている。

問三 線2・3 「大丈夫だよ」とあります。この間に「僕」の気持ちはどのように変化しましたか。その説明として最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア 家族と離れることへの覚悟は決まっていたが、それに加えて、兄と姉が流す涙を見て、自分はいつでもこの家に戻って来られるのだと安心している。

イ 母を非難する兄と姉を不愉快に感じたが、話をするうちに、「僕」の気持ちを分かってくれる人がいれば、離れて暮らしても淋しくないという気持ちになつている。

ウ 兄と姉の心配そうな様子から、これまで強がっていた自分に気づく同時に、兄の涙から、悲しい時に泣くのは自然なことなのだと納得している。

エ 兄や姉と話すうちに改めて悲しみがこみあげてきたが、二

人が「僕」に同情して泣いてくれたことで次第に気持ちが落ち着き、現実を受け入れ始めている。

問四 線4 「うちの柔軟剤の香り」とあります。どのように

ことを表わしていますか。その説明として適当なものを次のなかから三つ選び、記号で答えなさい。

ア 母親の期待に応えられなかつた、自分の情けなさ。

イ 帰ってきた自分を、優しく迎え入れてくれる家。

ウ 改めて感じた、自分と家族との間にあるつながり。

エ ビコか覺悟を決められない、自分の甘えた姿勢。

オ 不安定な自分に、安心感を与えてくれる兄や姉。
キ 「僕」の頑張りを認めてくれなかつた、母への悲しみ。

問五

——線5「なんだか痛々しかった」とあります、「お母さん」のどのような点が「痛々しかった」のですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 話をしながら、時折こわばつた笑顔を浮かべてしまう様子が、周りの母親たちから馬鹿にされている点。

イ 周りの母親たちから笑いをとろうとするあまり、受験に落ちた「僕」のことをあまりにもひどく言っている点。

ウ 自分の評判を良くしようとするあまり、普段よりも高い声を出して息つく間もなく苦しそうに話している点。

エ 自分の子が受験に落ちてしまつたことの決まりの悪さを感じながら、精一杯とりつくろつて話をしている点。

問六

——線6「やっぱり〜すごい人だ」とありますが、「田中さんのお母さん」の、どのような点が「すごい」のですか。その説明として適当でないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア お金をかけなくとも、立派に娘を育てている点。

イ いつでも「僕」の気持ちを見抜くことができる点。

ウ 人が驚くような物を、器用に作ることができる点。

エ 苦労している様子を見せず、明るく生きている点。

問七

——線7「田中さんたち〜立て直せた僕」とありますが、「」の時の「僕」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 田中さんの母親によつて、感心させられたり笑わされたりしたことで、それまでの心のつかえが取れ、平常心で卒業式に臨めるようになっている。

イ 自分のせいとは言え、どうにも辛い気持ちでいたが、田中さん親子の面白おかしい振る舞いによつて明るさを取りもどし、浮わついた気持ちでいる。

ウ 間もなく卒業式が始まるという状況で、誰もが重苦しい気持ちでいる中、自分だけは田中さんの笑顔によつて落ち着き、明るい気持ちでいる。

エ 田中さん親子の振る舞いによつて、それまで感じていた居心地の悪さがなくなり、穏やかな気持ちで卒業式を迎えるようになつてている。

問八

——線8「僕は泣く直前のようにも見えた」とありますが、この表現から、「僕」がどのような気持ちでいることが分かりますか。考えられることを二つに分け、それぞれ二十九三十字で書きなさい。

二

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

最近、考えさせられる経験をしました。ある研究所を訪ねた時のことです。茶飲み話に「四角い煙突」^{えんとう}が建つたという話題が出ました。ここからも見えますよというので、さっそく屋上にあがつて工場地帯の方に目をやると、ありました。根元が少し広がつたそれは、煙突といふよりも、すごく細くて丈の高い瀟洒な建物^{じょうしゃ}という感じです。煙突と言えば昔から丸いものと相場が決まっています。「それをまた何で四角く?」と聞くと、「美觀に^{びかん}配慮して^{はいりょ}」とのことでした。

ビルにしても住宅にしても、建物という建物はみな四角い箱型です。都会では空間がすべて四角い箱でピッシリと埋めつくされています。そういうところに丸い煙突がニヨキッと立つていると、あまりにも異質で、景観上どうにも調和がとれません。だから煙突も四角くすれば、落ちつきのある、美觀にも配慮した街づくりができるだらうというのが、煙突を四角くした理由だそうです。

四角い煙突を見、この話を聞いているうちに、「何か変だな」という思いが強くなつてきました。たしかに現実の四角い煙突は瀟洒で悪くはないのですが、生物学者としては、どうもこういうアイデアには賛成しかねるのです。

そのわけを説明する前に、なぜ煙突が円柱形なのかを考えておきましょう。これは形が意味をもつていることの良い例ですし、また、生きものがなぜ円柱形なののかの復習にもなるからです。

円柱形とは断面が丸くて細長いものです。この「丸い」と「細長い」

は、煙突にとつて、両方意味があります。

まず「細長い」。煙突は不要な煙やガスを、I 空の高いところに捨てるのですから、背丈^{せたけ}が高い必要があります。敷地面積は限られますので、当然、細長いものにならざるを得ません。

細長いものは曲がりやすくなみやすいものです。短い棒と長い棒とを曲げてみればすぐにわかるでしょう。曲がりやすさは長さの三乗に比例します。長さが二倍になると、同じ力を加えても、なんと八倍も曲がってしまいます。高い煙突には上空の大きな風の力が加わりますし自分の重さもかなりなものになります。II 細長くて曲がりやすいのに、これらの力が加わるので。それでも曲がらずたわまず、垂直に立つた姿勢を保つておくれには、断面の形を工夫して、強いものにしなければなりません。そして丸い断面は良い形なのです。

丸ければ三六〇度、どの方向からの力にも同じように対処できます。風向きも地震の揺れも方向はあらかじめ決まっているものではありません。すべての方向に強くするには、どうしても丸い形をとらざるを得ないでしょう。

丸は同じ面積なら周囲の長さがもっとも小さい形です。だから丸くすれば風に触れる面も少なくなり、煙突にかかる風の力を小さくできます。また、丸くて角がないということは流線形^{りゅうせんけい}なので乱流が起こりにくく、これも風の力を減少させる効果があります。

風の影響^{えいきょう}はもう一つ考えられます。丸はどの方向から見ても左右対称ですが、III 非対称だと、風が当たれば飛行機の翼の原理で、風向きと直角方向に力が働きます。煙突に曲げの力が加わるわけで、これは好ましくありません。完全に対称な丸い断面は、この点からも良

い形です。

煙突は外から見れば円柱形ですが、真ん中が抜けており、円筒形です。中空の部分があるのは煙を通すという目的のためで、これは当然なのですが、ここでも丸は良い形なのです。先ほど述べたように、丸は内に包んでいる面積あたりの周の長さが一番少ないのです。壁の近くでは、煙は壁との摩擦ですんなりとは昇つていきませんから、煙の通る面積あたりの壁が少ないと、効率よく煙を通せます。また、角があると、角の隅では煙が淀んでしまいますから、ここでも角のない丸い形が良いことになります。

丸い形が良いのは、これだけではありません。煙突に限らず、中ががらんどうの構造物で圧力のかかるものは、みな丸い形をしています。外側から圧力がかかる潜水艦も船底もトンネルも丸い断面をしていましたし、内側から圧力のかかるガスボンベや水道管も、やはり丸です。丸は圧力に強い形だからです。煙突も風圧を受けますし、中で排気ガスが爆発したりして圧力が加わる場合も出てきますから、丸い形が良いことになります。

こう見てくると、丸いということは強い形であることがわかります。だから丸くすれば、他の形にするよりも少ない材料で、十分な強度のあるものがつくれて経済的だし、軽くできるので、船などの動くものは少ない燃料で走れることになります。また、煙突や水道管のように中を气体や液体を通して運ぶものなら、丸ければ抵抗が減り効率よく運べるので、より細い径のものでもまにあい、建築費が節約できます。

このように煙突にとつて円柱形は良い形なのです。それでもあえて四角くしたのは、景観という環境を重視し、見る人のことを大切にする姿勢の表れであり、「環境にやさしい」、「人にやさしい」発想が四

角い煙突を生んだということなのでしょう。

IV われわれの身のまわりは四角い物ばかりです。街は四角い建物で埋め尽くされていますし、部屋の中を見渡しても四角いものだらけ。私たちは、こんなにも四角いものにとり囲まれて暮らしているのです。

その四角の中に丸いものがポツンとあると、異質で浮き上がつてしまい、どうにも見ていて落ちつかず、ひいては丸いものは美しくないという感覚を、われわれはもつてしまふのかもしれません。だからこそ煙突も美しい四角に、ということになつたのでしょうか。「四角は美しい、丸は醜い」というのが、四角で埋め尽くされた都会の美意識になつてしまつたのかもしれません。

さてでは、その四角い建物の中で四角い家具にとり囲まれて暮らしているヒトという生物がどんな形をしているかというと、これがじつは古くさい煙突と一緒に、丸い円柱形なのです。

こういう丸い体は四角い部屋にそぐわない。丸い人体は醜い。これからは四角い顔が美人の条件。ファッショնだって箱をかぶつたような四角いものがもてはやされるようになる。四角いテレビの画面の中の箱男と箱女のラブシーンにうつとりするのが近い将来の午後の時間帯——四角い煙突の論理を突き詰めていくと、こうなつてしまふでしょう。

でもこの手の箱形至上主義には反発を感じてしまいます。そもそも私たち自身を含め、生物はみな円柱形なのです。円柱形を増やせば世のなか円満、人生があわせと、そう主張したいのです。

生きものはそもそも丸いのに、なんで人間はこうも四角いものばかり作りたがるのだろうかと、私は常日頃から疑問に思っていました。もちろん作る側にも、それなりの理由があるのはわかります。四角な

らば安定性がいい。四角ならばぴったり納まる。そして最大の理由は、四角ならば作りやすいということでしょう。

ただしこれは作り手の論理です。近ごろ「人にやさしい技術」や「環境にやさしい技術」という言葉をしようとちゅう耳にするようになります。これは大変いいことですが、そこで気になるのが丸と四角に端的に表れている人工物と生物の設計思想の違いです。設計思想がこうもかけ離れていて、はたしてそう簡単に生物や人や環境にやさしいものなど作れるのでしょうか？

丸い煙突が異質に見えるのなら、解決策は簡単。まわりに木を植えればいい。丸い木々の中で丸い煙突は美しく映えるはずです。円柱形の生きものたちを排除して四角い建物で空間を埋めつくし、その上でそういう環境への影響を考慮し見る人の美意識に配慮して四角い煙突を建てても、それはまやかしのやさしさというものではないでしょうか。四角い煙突の発想から生まれてくるのは、丸い自己の体に対する醜悪感、つまりは自己嫌悪です。自分自身に嫌悪感をもたせるようでは、人にやさしい技術とは、とても呼べません。

さて、この「人にやさしい」ですが、この言い方は、かなり情緒的で、「やさしい」とは何なのか、いつたいどうやつたらやさしくなるのか、いま一つはつきりしません。そこで、「やさしい」という言葉を「相性がいい」と言い換えれば、ある程度はつきりしてくると私は思うのです。四角と四角なら相性はいいが、丸と四角は相性が悪い。だからこそ四角い煙突なのでしょう。このような論理からいけば、当然、私たち丸い人間と四角い人工物とは相性が悪いことになります。今の技術は人にさっぱりやさしくはないのです。どうしたらやさしくなるかを人間本位に考えれば、人工物の方を丸くするのが筋というものでしよう。

もちろん、私はなんでも丸くすればいいと主張するつもりはありません。言いたかつたことは、「四角い煙突」のような技術のあり方を批判する具体的根拠を、生物学は提供できるということです。生物学というと、浮き世離れした学問で技術などとはまったく縁がないと思われがちですが、それは違います。

人間は生物の一員だし、環境も多くの生物によつてつくられているのです。だから、人へのやさしさ、環境へのやさしさこそ、今後、技術が目指すべきものでしよう。人や環境にやさしいものを作りたいなら、生物との相性を良くする必要があります。そのためには、生物がどのようなデザインをもつてているかを、エンジニアもよく知つていなければなりません。そのような知識をふまえてはじめて、人にも環境にも、本当にやさしいものが作れるのだと私は思っています。

（本川達雄『生きものは円柱形』NHK出版より）

※1 丈の高い潇洒な高さがあり、さっぱりとしていておしゃれな。

※2 配慮：あれこれと心くばりをすること。

※3 三乗：「乗」は、同じ数をかけ合わせる回数をあらわす数学用語。例えば、「2の三乗」は「 $2 \times 2 \times 2 = 8$ 」となる。

※4 流線形なので乱流が起こりにくく……ここでは、空気抵抗が少ない形をしているので、煙突にあたつたあとで風の流れが乱れにくく、という意味。

※5 径：直径。

※6 端的に：はつきりとわかりやすく。

※7 人間本位：人間を中心にしてものごとを捉えるさま。

※8 浮き世離れ：現実的ではないさま。

問

I N

に入る言葉として最も適当なものを次のなかからそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ記号を二度使つてはいけません。)

ア たしかに

イ もし

ウ ただでさえ

エ なるべく

イ 横から吹く風の力を受け流しやすい形だから。

ウ 内外から加わる圧力に影響を受けやすい構造だから。

エ 煙が淀むことなく上部へと流れやすい形だから。

問

I N

に入る言葉として最も適当なものを次のなかからそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ記号を二度使つてはいけません。)

ウ ただでさえ

エ なるべく

問二 線1「こういうアイデア」とありますか、それはどのよう

うなものですか。その説明として最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア 景觀とは無関係に、設計者自身の考え方と美意識を優先し、

丸い煙突とは別に四角い煙突も作る、というもの。

イ 四角い建物が多く立ち並ぶ街並みに合わせ、本来丸い煙突

の形を四角形に変えることで調和をとる、というもの。

ウ 細くて丈の長い四角形の煙突を安定させるために、煙突の

根元部分を少し広げた形にする、というもの。

エ 古くさい円柱形から細くて瀟洒な煙突にしてゆくことで、現代風の景觀を作り出す、というもの。

問三 線2「丸い断面は良い形なのです」とありますが、それ

はなぜだと筆者は考えていますか。その説明として適当でないものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア 全方向からの力にも対応できる構造だから。

問

I N

に入る言葉として最も適当なものを次のなかからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ウ 内外から加わる圧力に影響を受けやすい構造だから。

エ 煙が淀むことなく上部へと流れやすい形だから。

問

I N

に入る言葉として最も適当なものを次のなかからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ウ 内外から加わる圧力に影響を受けやすい構造だから。

エ 煙が淀むことなく上部へと流れやすい形だから。

問五 線4「まやかしのやさしさ」とありますが、その根本

にある意識について対比の形で述べている一文をこれより前からさがし、最初の五字を抜き出しなさい。なお、「至上主義」とは、「それが最も良いものだとする考え方」という意味の言葉です。

問六 線5「人にやさしい」とありますが、それはどのような

「」とあると筆者は考えていますか。本文の言葉を用いて説明しなさい。

問七 本文について述べたものとして適當でないものを次のなかから選

び、記号で答えなさい。

ア 筆者は、生活とかけ離れたものと誤解されがちな生物学を、人や環境といった我々の生活に身近なものに関係する学問である、と考えている。

イ 四角いものが周囲を埋めつくす状況が続いた場合、人間という円柱形をした生きものが、自分の体に対しても醜悪感を抱きはじめる恐れがある。

ウ 筆者は、景観のささいな変化から、生物と人工物の持つ設計思想の違いや、やさしさとは何か、といった問題にまで考えをめぐらせている。

エ 人にも環境にも、本当にやさしいものづくりを目指すならば、四角いデザインをやめ、すべての人工物を丸い形に統一する必要がある。

國語

解答用紙（中学第一回）

受驗番號

氏名

得 点

問八

問四

- 2 -

問

1

1

1

b

2

1

1

3

— 1 —

問

卷之三

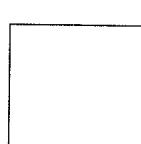
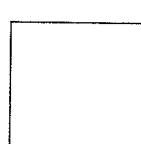
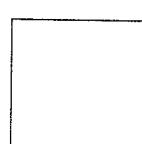
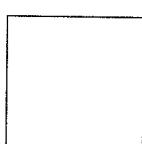
1

100

問三

問六

問七



三

問一

I

□

II

□

III

□

IV

□

問二

□

問三

□

問四

□

問七

□

問六

□

問四

□
□
□
□

問五

□

□

□

□